

一般社団法人
日本音楽療法学会ニュース

発行 一般社団法人日本音楽療法学会

理事長 藤本 禮子 副理事長 土野 研治 副理事長 二俣 泉

事務局 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-20-8 HK浜松町ビル 6階 TEL 03(5777)6220 FAX 03(5401)0337

スーパーバイザー養成講座
基礎編 I を終えて資格制度検討特別委員会
今村ゆかり

2019年9月20日（金）第19回日本音楽療法学会学術大会講習会の本部企画として、スーパーバイザー養成講座：基礎編 I を実施いたしました。

学会では以前から、音楽療法士が臨床を続けていくために欠かせない研修としてスーパービジョンを位置づけ、シンポジウムの開催、「スーパービジョンの手引き」の刊行などを行ってきました。また複数支部で実施されたLSC（ラーニングサポートセンター）講習会でも、ピア・スーパービジョンの講習を取り入れ、全国講習会等でもたびたびスーパービジョンの実施を奨励してきました。しかし、まだまだスーパービジョンは身近なものになっていないとは言えず、またピア・スーパービジョンに関してもLSC講習会と類似の形式で実施してみたものの、通常の音楽療法士同士の意見交換・情報交換との違いがあまりよくわからないという感想を耳にすることが多くありました。そこで、よりよいスーパービジョン実施の環境を整え、スーパービジョンという文化を定着させていくことを目指してスーパーバイザー養成講座を企画・実施することとしました。

講座の理念や目的、講座全体の概要は、学会ニュース2019年春号に同送いたしました「スーパーバイザー養成講座」説明冊子をご覧ください。今回は、その立ち上げとして実施された大阪大会での基礎編 I の講座について報告いたします。

基礎編 I では、グループスーパービジョンの一形態であるピア・スーパービジョンの概要を確認し、グループワークを通して、ワーク内の役割やファシリテーター機能を学び、ピア・スーパービジョンを模擬体験することをねらいとしています。

今回の講座は、募集開始から3日目で定員に達し、募集締め切りになるという状態でした。スーパービジョンについての、また認定資格取得後の研修についての会員の皆様の高さ・ニーズを改めて実感いたしました。

講習会当日は、108名の受講生と15名のファシリテーターが参加されました。最初にスーパーバイザー養成講座の概要をお話し、スーパービジョンの基礎知識を確認してから、いよいよグループ・ワークが始まりました。最初のグループワークでは、グループメンバーがほとんど初対面の方だったこともあり、会場内の話し声も小さく皆さんにやや緊張がみられましたが、ほんの数分でグループ内の対話が熱気を帯びてきました。ピア・スーパービジョンの進行を確認してからの2回目のグループワークは、委員会の用意した課題症例を元に話し合いをしていただいたのですが、どのグループでも共感しながら互いの話を傾聴する姿勢が見られました。参加者にとって、一人一人の悩みや意見を同じような経験をしている「ピア仲間」に傾聴される機会となり、心地よい体験となっていたようです。

受講された皆さんからは、「後輩が増えてスーパービジョンを依頼されることが多くなり、スーパービジョンについて体系的に学ぶいい機会となった」「身近なところにスーパーバイザーがいないので、仲間同士で『雑談』で終わらない『対話』をやりたいと思って参加した。とても参考になった」など、体験を通じた学びについて多くの感想が寄せられました。

基礎編 I の講座では、ピア・スーパービジョンの方法やファシリテーターのスキルを学習するだけでなく、グループワークを通して参加者一人一人が自分の「あたりまえ」や「今までの理解」を再点検する経験をしていただければ幸いです。

今後の講座の実施は、逐次学会ニュースや学会ホームページでご案内いたします。多くの皆様にご参加いただき、意見をお寄せいただくことで、講座自体がさらに皆様のニーズに合ったものに成長していくことと思っております。

最後に、本部企画の講座開催を全力で支えていただきました大阪大会実行委員会の皆様に感謝いたします。

第19回学術大会を終えて

実行委員長 鈴木 暁子

2019年9月20日から3日間、第19回日本音楽療法学会学術大会を大前哲彦大会長のもと、大阪国際会議場にて開催いたしました。大会テーマは「研究と臨床の深化 ～多様なニーズに応えるために～」といたしました。講習会には1,520名、大会には2,034名が申し込まれ、3日間で延べ約5,500名の方々にご参集いただきました。2年半の準備期間を経て、数多くの方々のご尽力のおかげで無事、大会が終了しましたことに安堵しております。研究発表に応募して下さった方々、参加して下さった方々、開催にご協力いただいた方々、全ての皆さまに心より御礼申し上げます。

ここで簡単に3日間を振り返らせていただきます。1日目の講習会は同時に7つの会場で、19名の講師と15名のファシリテーターに講習をしていただきました。今、音楽療法士が学ぶべきことを大会テーマに基づき慎重に検討して企画した講習はいかがでしたでしょうか？また今回は、本部企画の2つの講習「質的研究法 グラウンデッド・セオリー・アプローチ入門」と「スーパーバイザー養成講座基礎編Ⅰ」が実施されました。どちらも申し込み開始後すぐに満席となり、会員の関心の高さが窺えました。

2日目の開会式では、ご多忙の中、駆けつけて下さった招待者の皆さまのご紹介をさせていただきました。星野悦子氏の講演では、音楽療法士にとって非常に重要な「同質の原理」を中心とした最新の科学的研究の動向を興味深く聴いていただけたのではないのでしょうか。

特別企画 対談「音楽の力」は、世界的指揮者の佐渡裕氏をお招きし、若き日の佐渡氏と交流のあった本学会員の益子務氏にナビゲーターをお願いしました。この対談は、市民公開講座としましたので、応募された300名の市民の方々も聴いてくださいました。また対談に先立って、音楽療法について説明した動画を観ていただきました。動画の作成にご協力いただきました皆さまにも御礼申し上げます。

2日目の午後はシンポジウム「国家資格は今 - 2 -」が開催されました。音楽療法士の国家資格化の道程について、聴衆も交えて有意義な議論ができました。このあと、自由研究38題、課題研究11題、ポスター発表54題の研究発表と17の自主シンポジウムが2日間にわたって行われました。ポスター発表につきましては、すべてのポスターを2日間掲示できましたので、ゆっくりとお好きな時間に見ていただけたのではないかと思います。

2日目の夜は、「つながれ～」をテーマに交流会が開催されました。医療法人篤友会の職員で構成されたビッグバンドによるジャズの演奏では、期せずして何組ものダンスが披露され、ジャンケン列車ゲームでは、文字通り参加者全員がつながりました。

3日目に開催されたビギナーフォーラム「その悩み、みんなで語ろう 考えよう！」が予想をはるかに上回る盛況であったこともご報告しておきたいと思います。近畿支部のビギナーチームが考えた3つのテーマごとに集まって、ファシリテーターと共にグループ討議を行いました。是非、この企画を今後の大会でも継続してほしいという声が多く聞かれました。

開会式では大会期間中の会場の様子やスタッフの写真を映しながらスターダストレビューの「道～The Song For Us～」を演奏して幕を閉じました。

大会における渉外活動では特筆すべきこととして、大阪府および大阪府医師会の後援名義をいただきました。また関連職種団体や議員の方々には招待状を送り、14名の方々に来ていただきました。音楽療法の社会的認知度を上げる一助になったものと自負しております。

ひとつだけ残念なのは、台風17号が9月21日から22日にかけて九州・沖縄地方に接近、北上したために九州方面の飛行機や鉄道の運休が相次ぎ、参加者のお帰りの足に支障をきたしたことです。この台風のために来られなくなった方がおられたことも伺いました。9月というのは年々、大型化、猛烈化している台風が、最も多く到来する時期です。万一、特別警報でも出ようものなら開催会場も閉鎖してしまい、どうすることもできません。現在、学術大会の内容についての見直しは、学会の課題として取り組まれています。開催時期についても検討する必要があることを提言したいと思います。

第20回学術大会は、来年10月2日から熊本で開催されます。熊本大会のご成功をお祈りして、ペンを置かせていただきます。



第20回日本音楽療法学会学術大会（熊本）に向けて

大会長 齋藤 考由

次期大会長の立場から、2020年開催の第20回日本音楽療法学会学術大会に向けてのご挨拶とご案内を申し上げます。大会は、2020年10月の2日に講習会、続く3-4日に学術大会という日程で2019年12月竣工予定の『熊本城ホール』（HP：<https://www.kumamoto-jo-hall.jp/>）にて開催致します。熊本市の中心に位置するアクセスの良いホールです。復旧中の熊本城が、傷つきながらも雄々しく立つ姿も眺めていただくことができます。

さて、我々九州・沖縄支部が全国大会をお引き受けしたのは、何より2016年4月の震災による被災地域が元気を取り戻していく一助になりたいとの思いからでした。第19回大会の会員集会でも報告しましたが、今なお多くの方々が従来の生活に戻れずいます。会員の皆さんに、ご参加いただくこと自体が復興支援となります。ぜひ来年10月の数日をこの大会に充てていただけてすようお願い致します。

大会のテーマは「これからの20年に向けて ～この国から発信できること～」と致しました。学術大会も第20回を数え、学術団体としても発足・発展の時期を経て「大人」として社会の仲間入りをする時機を迎えたと言えましょう。特に関連職種の皆さんから「音楽療法是で独善的で自己愛的」などと評されたりしないよう自らを律する必要があります。その意味で音楽療法には“他より優れて職務や役割における効果的ないしは優れた行動に結果的に結びつく特性を持つ”という意味でのコンピテンシー（competency）を対人支援の現場で確立できるかどうか問われています。これは、本学会設立以来の会是とも言える「音楽療法国家資格化」という方向性とも一致します。しかしそれは、他領域のスキマにその存在意義を探ることなどではなく、他に比してより深いレベルで人間存在を支える「技（わざ）」を我々が持つことを世に示せるかどうかにかかっていると考えます。そこで今回の講習会講師には、ヨーロッパ各地、オーストラリア、北米などで音楽療法の実践経験をもつ方々を含め計16組の先生方からご内諾をいただきました。ご経験を踏まえ「これから」を語っていただこうと思います。

メイン・スピーカーとしては、講習会講師ならびに基調講演講師としてニューヨーク大学教授で『Music-centered Music Therapy（音楽中心音楽療法）』の著者である Kenneth Aigen（ケネス・エイゲン）さんを招聘しました。彼とは数年前のあるセミナーで一緒に以来、その考えには共鳴・共振するところも多く、今回のオファーも快くお引き受けいただきました。彼は「音楽すること（musicizing）」を川になぞらえて「今度は、あなた自身が川であると想像してほしい。（中略）あなた自身が川であるので、川についての体験はなくなる。しかし、川であるからこそできる特別な体験を味わうことができる。他のどのような体験ともつかない、川のような体験としか表現できないものとなる」と書いています。西洋合理主義を踏まえながらも、それを超えた「音楽になる」体験に音楽することの意味を見出し、理論の中心にすえようという志が読み取れます。当日は、このあたりのお考えを詳しくお聞きできるのではないかと期待しています。実は、このような視点はわが国に暮らす人々が、古くから外来のさまざまな文化を受け入れながらそれらを「日本という方法」において編集し活かしてきた態度とも呼応するのではないかと思います。「ゆく川の流れは絶えずしてしかもとの水にあらず」、私たちのいのちと音楽は同型です。きっと～この国から発信できること～を考えるきっかけとなることでしょう。

さらに「先達に聞く」と題して、日本の音楽療法界を優に半世紀を超えてリードしてこられた松井紀和先生にご自身と音楽療法のあゆみをお聴きします。聞き手は、彼の一番弟子のひとり古賀幹敏さんをお願いしてあります。とりわけ若い世代の会員にとっては「故（ふる）きを温（たず）ねる」だけでなく「新しきを知る」意味でも貴重な機会となりましょう。

市民公開講座と併せた大会長公演は「音楽で治療なんてできるのか？」という、いささか逆説的で挑戦的なタイトルをつけさせていただきました。広く一般の方にもご案内は致しますが、とりわけ関連他職種の方々にも聞いていただきたいと考えています。我々はほんとうに彼らから「音楽だったら自分たちの方がよっぽど上手に使える」と言われない水準にまで到達しているでしょうか。今回は、「若くてまだ死ななくて良いのに死にたがる人たち」や「まだ死にたくないのに死んでいくしかない人たち」と音楽してきた40年にわたる町医者としての音楽臨床経験をよりどころに考えてみようと思います。一緒に考えていただければ幸いです。これからの20年に向けて我々が獲得すべきコンピテンシーの方向性のひとつを示すことができればと願うからです。

台風シーズンも過ぎた快晴の熊本の空の下で皆さんと深く学術的な交流を深めることができますよう祈念して、ご挨拶とお誘いの文とさせていただきます。

■ 国家資格推進委員会報告 ■

国家資格推進委員会

委員長 藤本 禮子

学会ニュース第36号では、第18回学術大会中に開催された理事会、総会において、「音楽療法士の国家資格化と保険点数化を同時に進めること」、そして、「多領域に広がっている音楽療法の全ての領域をカバーする資格を狙うのではなく、“先ず資格化できる領域から取り組む”方策」が承認されたことなどを報告致しました。学会ニュース第37号では、公明党音楽療法推進プロジェクトチーム（以下MTPT）への音楽療法に関する情報の提供とそれらの整理分析を重ねていることをお知らせしました。

その後の活動については、今年第19回学術大会中に開催された理事会、総会、また会員集会で報告を致しました。そして9月21日の大会シンポジウム「国家資格は今-2-」、翌22日の自主シンポジウム「音楽療法の可能性を探る～人工内耳装用と人工内耳装用児への音楽療法～」では、現在の詳細な状況とこれからの方向をお示し致しました。

今回は、重複することもございますが、国家資格化に向けた現在の取組みから、2点報告致します。

1. 音楽療法士国家資格化法文案の検討と「法文案作成 要整理事項」

2019年1月から、MTPTと国家資格推進委員会との間で、音楽療法士国家資格化の為の法文案（以下法文案）の検討が始まりました。

法文案は、2003年に当学会が音楽療法士の国家資格化に取り組んだ際に作成された法文案を基にしております。今春、参議院法制局から新たな提案の入った法文案が提示され、検討を重ねてまいりました。MTPTとの話し合いの際に、法制局の担当者が加わった機会がありましたが、その際担当者から「音楽療法の専門性、必要性、有用性を明らかにすること」、特に対象領域について「音楽療法の対象領域は非常に広いが、音楽療法でなければ支援できない対象者は誰なのか」、「他職種の支援が可能な対象者では、音楽療法士の国家資格は必要ない」との指摘を受けました。

現在様々な臨床現場で、身体的・精神的障がいのある人を支援するために、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師、音楽教員、医師、看護師、介護福祉士など国家資格を持つ専門家が働いています。そのような臨床現場において、「国家資格者として音楽療法士がどうしても必要である」と認められるためには、音楽療法士が行なうことに音楽療法でしか得られないこと（効果）がある、という事実が必要となります。

音楽が素晴らしいことは、ほとんど全ての人々が知っている事実です。音楽療法が素晴らしいことは音楽療法を受けている方々、またその関係者の方々が知っています。もちろん、私達音楽療法士はよく知っております。しかし、「音楽療法の専門性・必要性・有用性」が他の国家資格を持つ専門家を含めた全ての人々から認められなければ、音楽療法士の国家資格化は実現致しません。

今年の4月、法制局から「法文案作成 要整理事項」文書が渡されました。その内容は、まさに①音楽療法の専門性 ②音楽療法の有用性 ③音楽療法の必要性を明確にすること、でした。国家資格推進委員会はこの課題への検討を重ね、6月24日に回答冊子を提出致しました。

この冊子では、音楽療法の専門性・必要性・有用性を具体的に詳細に示し、音楽療法士は、他職種では支援ができない方々（支援の谷間にいる方々）を支援する専門家であることを示しました。その具体的な対象者例として、医療的ケアが常に必要な超重症児・者、リハビリテーションに音楽が必要な人工内耳装用児、高度行動障害児・者などを挙げました。この冊子は、昨年理事会、総会で承認された、「音楽療法士を国家資格とするためには、多領域に広がっている音楽療法の全ての領域をカバーする資格を狙うのではなく、“先ず資格化できる領域から取り組む”方策」に則って作成された回答冊子です。

この冊子を作成する中で、「広く行われている音楽療法という営みに共通するものは何か」ということが議論となりました。音楽療法は、身体リハビリテーション、心理的問題へのアプローチ、コミュニティへの取り組みなど、様々なニーズに対応しています。「その全てに共通するものは何か」について議論が進んでいきました。議論の過程で、「音楽が、対象者のニーズに合わせて即応的に使用されること」と、「対象者と音楽療法士との間で情緒的交流がなされていること」は、ほぼ全ての音楽療法に共通することではないか、という意見に集約されていきました。この「対象者のニーズに合わせた即応的な音楽使用」とそれに伴って「情緒的交流がなされる」という2点は、他の療法とは異なる特徴であると言えます。

2. 保険点数化の可能性に向けて

学会ニュース第37号でお伝えしましたが、2月に、長崎神田E・N・T医院でおこなわれた人工内耳装用児への音楽療法現場を視察致しました。それに基づいて、6月には、大口善徳厚生労働副大臣（当時）に申し入れ書を提出致しました。この申し入れ書は「難聴児に対する人工内耳手術後のリハビリテーションにおいて、音楽の活用を明確に位置付けてください」という内容を申し入れています。これは音楽療法の保険点数化の可能性につながる申し入れです。先の自主シンポジウム「音楽療法の可能性を探る～人工内耳装用と人工内耳装用児への音楽療法～」では、その詳細が報告されました。本件を含め、「音楽を用いた介入」の保険点数化への可能性については、今後も継続して取り組んでまいります。

誤解のないように申し添えますと、音楽療法の「国家資格化」と「保険点数化」は、相互に関連しあってはおりますが、基本的には別個の案件になります。

人工内耳装用児への音楽療法のみが国家資格化される、という誤った理解をされている方がおられるようにも聞いておりますが、そのようなことはありません。人工内耳装用児への音楽療法は、保険点数化の可能性のある音楽療法の例として自主シンポジウムで報告を致しました。しかし、大会シンポジウムでお示した法文案には、その音楽療法のみが国家資格対象の音楽療法であるという記載はしてはおりません。

音楽療法の健康保険点数化が認められることは、学会の悲願です。ただ、現在の日本の社会情勢、医療や福祉情勢、政治情勢を鑑みると、音楽療法が実施されている全ての領域ですぐに保険点数が認められることは極めて困難です。学会ニュース第37号インタビューで既に述べましたように、国家資格化・保険点数化は確かに大きな目標ですが、それが最終的なゴールではなく、それは一つのステップであると考えます。そこからさらに、資格をバージョンアップしていく自らの努力が必要です。一人ひとりの学会員が、実践と研究を続け、国が納得できるような効果・明瞭なエビデンスを呈示していければ、その範囲が広がるであろうと考えます。

音楽療法士の国家資格化には、法律が必要です。このような法律は、国会議員にしか作れません。今回はMTPTの国会議員が、音楽療法士の国家資格化・保険点数化に向けて、尽力をして下さっております。

繰り返しになりますが、音楽療法士の国家資格化への働き掛けを継続する為には、会員の皆様は今、音楽療法士を国家資格とするためには、「多領域に広がっている音楽療法の全ての領域をカバーする資格を狙うのではなく、“先ず資格化できる領域から取り組む”方策」についてのご理解と強いご支持が必要となります。音楽療法士の国家資格化・保険点数化に向けて、益々のご支援とお力添え、そしてご協力を賜りたく、ここをお願いを申し上げます。

■ 日本音楽療法学会 研修・講習会のご案内 ■

研修・講習委員会

委員長 高山 仁

紀元前から行われていた「音楽」による癒しの業が、19世紀末から近代音楽療法として実践研究が進められ久しく時間が流れました。すでに諸外国では、医療・福祉・教育など公的な仕事として成立している国もありますが、日本においては未だ十分とは言えません。それらを踏まえ、この2年間の研修・講習会のテーマを『音楽療法の共創～職業としての可能性を追求する～』としました。単に「可能性」とせず「追求する」を加え、国家資格化を目指す積極性を示したいと考えております。

その内容として、土曜日には「職業としての音楽療法」をより深く学ぶためにA会場：二俣泉氏には、音楽療法という枠組をより具体的な計画・実践として行うために「フォーマルな音楽療法とカジュアルな音楽療法」など、実際に必要なプラン作成への基本を再度押さえ、B会場では音楽療法のアイデンティティを支える「音楽」について、既成曲・オリジナル・即興などをどう実践の中で用いるか、またクライアントの目標の進展に対して1曲をどう展開・編曲するかなど、道具としての「音楽」について実践的に学びたいと思います。担当は高山です。またC会場：菅田文子氏には、実践における形態【個別・小集団・大集団】それぞれの関わりに必要な「目標の立て方～実践～評価」等について具体的な学びをお願いしました。尚、各会場共に通し受講となります。

翌日曜日は正に「共創」として「感覚統合、医療、霊長類研究から人間を知る」という計画です。柿崎次子氏には「感覚統合理論に基づいた音楽療法概論」を、佐藤正之氏には、医療の現場から主に「高齢者の音楽療法について」その実践研究の成果をご講演いただき、服部裕子氏には「チンパンジーの研究から派生して、人間の社会性・文化について」お話いただく予定です。また、お昼休み後は皆様とともに合唱をしたいと考え、合唱指導者としてご活躍の武藤千春氏とともに声を合わせる時間をお願いしました。私たちは、音楽療法の素晴らしさや必要性を確信しているからこそ、視野を拡げさらなるチャレンジを課して成長したいと考えています。多くの会員の方々の参加を心よりお待ちしております。

◎プログラム

2020年2月8日（土）各会場定員100～150名（予定） ※「一般向け・認定者向け」などは目安であり自由選択です。

受付12：45～	A会場（150名）	B会場（100名）	C会場（100名）
13：30～13：40	挨拶・ガイダンス	挨拶・ガイダンス	挨拶・ガイダンス
13：40～15：10	講義演習1 一般初心者向け 「音楽療法の設計図～アセスメントから評価まで、その構造を再考する～」 二俣 泉 昭和音楽大学 准教授	講義演習1 認定者向け 「『音楽する』ことから、音楽療法を検討する～音・音楽の質、選曲・編曲の視点から～」 高山 仁 たかやま音楽療法研究所 主宰	講義演習1 初心者&認定者向け 「対象者の規模と音楽活動～個人から大集団まで～伴奏・作曲・即興を含む、理論と演習」 菅田文子 大垣女子短期大学 教授
15：10～15：30	休憩	休憩	休憩
15：30～17：00	講義演習2 同タイトル	講義演習2 同タイトル	講義演習2 同タイトル
17：00～17：30	質疑応答・討議	質疑応答・討議	質疑応答・討議

2020年2月9日（日）グランツザールホール 定員600名 講演は90分 合唱は50分です。

受付08：30～	
09：00～09：10	挨拶・連絡事項
09：10～10：40	講演1 「感覚統合理論による音楽療法概論」 柿崎次子 ホリスティック音楽療法の会 代表
10：40～11：00	休憩
11：00～12：30	講演2 「音楽療法を科学する：認知症を中心に」 佐藤正之 三重大学医学部附属病院 認知症センター長・病院教授
12：30～13：30	昼食・休憩
13：30～14：20	合唱演習 「音楽的感性を揺り動かそう～みんなで楽しく合唱体験～」 武藤千春 羽島市文化センター合唱団 指揮者
14：20～14：30	休憩
14：30～16：00	講演3 「ヒトにユニークな音楽性とは何かーチンパンジーとの比較研究からー」 服部裕子 京都大学霊長類研究所 助教
16：00～16：10	閉会 連絡事項

*今回の会場は東邦音楽大学（川越キャンパス）となります。時間には余裕をもってご参集ください。

*都合により一部講師、内容の変更が生じることがありますことを、予めご了承ください。

*今年度は「スーパーバイザー養成講座 基礎講座Ⅰ」の講習会が2月8日（土）午前中に同会場にて開催されます。

■ 2019年度資格審査（面接試験）について ■

- 2019年度資格審査（面接試験）を申請できるのは次の方です。
 1. 日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）資格（合格年度に関わらず）を有する方
 2. 日本国外の音楽療法士資格を有する方
 3. 日本音楽療法学会認定音楽療法士の資格を失効し、再度同資格の取得を希望する方
- 2019年度資格審査（面接試験）申請受付期間
2020年1月29日（水）～2月12日（水）まで事務局必着
- 申請方法
認定規則「日本音楽療法学会音楽療法士認定規則（面接試験）」を取り寄せ、それに沿って申請してください
認定規則（面接試験）取り寄せ方法
500円の定額為替（郵便局で購入）を同封の上、「認定規則（面接試験）請求」として事務局へ送付してください（会員のみが配布対象）
- 書類審査結果
2020年2月下旬頃通知 *書類審査合格者には面接試験の案内を同封します
- 面接試験日
2020年3月14日（土）、15日（日）
*やむを得ない事情により希望日がある方は申請時に書面（書式自由）を同封して申し出てください
*面接試験日時のお知らせ後の変更は出来ませんのでご承知おきください
- 面接試験会場
東邦音楽大学 川越キャンパス 埼玉県川越市今泉84
- 面接試験内容
口頭試問と実技（計15分間） *実技に関する詳細は下記をご確認ください
- 試験結果
学会ホームページにて合格者の受験番号を発表後、合否に関わらず3月末日までに文書通知

《2019年度資格審査（面接試験）における実技試験について》

1. 課題曲
面接実技試験弾き歌いのための課題曲は、下記A群（テンポの速い曲群）、B群（ゆっくり目の曲群）の各5曲とする。
A群（テンポの速い曲群）
 - ① おどるポンポコリン……………さくらももこ 詞、織田哲郎 曲
 - ② 夢をかなえてドラえもん……………黒須克彦 詞・曲
 - ③ 南国土佐を後にして……………武政英策 詞・曲
 - ④ リンゴの唄……………サトウハチロー 詞、万城目正 曲
 - ⑤ 高原列車は行く……………丘灯至夫 詞、古関裕而 曲
B群（テンポがゆっくり目の曲群）
 - ① 365日の紙飛行機……………秋元康 詞、角野寿和・青葉紘季 曲
 - ② 時の流れに身をまかせ……………荒木とよひさ 詞、三木たかし 曲
 - ③ 遠くへ行きたい……………永六輔 詞、中村八大 曲
 - ④ 少年時代……………井上陽水 詞、井上陽水・平井夏美 曲
 - ⑤ 君をのせて……………宮崎 駿 詞、久石 譲 曲
2. 実施方法
上記A B各群から2曲ずつ選択し（計4曲）、資格審査（面接試験）申請時に明記する。
申請した曲の中から、当日指定された1曲の弾き歌いを行う。
*弾き歌いの前に、自身が想定する対象者、人数、目的等を面接官に簡潔に説明し、想定場面に合った弾き歌いをする。
*弾き歌いで楽譜を見ることは可とするが、それはメロディーのみ・コードネーム・歌詞が記載されている楽譜までとして、伴奏全部が記載されている楽譜の持ち込みは不可とする。
*実技試験は約3分とする。
3. 使用楽器
会場に設置されているグランドピアノ、または受験者が持参したギターに限定する。
※ギターの譜面台あり。

北海道支部 — 近況 —

支部長 近藤 里美

1. 2019年5月より新体制となりました。
支部長：近藤里美、副支部長：長谷部夏子、事務局長：下出理恵子
どうかよろしくお願いたします。
2. 第36回北海道支部大会・講習会が開催されます。
日時：2019年11月10日（日） 10：00～16:00
場所：北海道医療大学サテライトキャンパス
講師：肥田裕久氏（医療法人社団宙麦会理事長 ひだクリニック院長）
テーマ：精神科リハビリテーションの1stステップ
～集い、食べ、語らい、歌う～
北海道支部会員の皆様をはじめ、他支部からの参加も歓迎いたします。
詳細につきましては、支部ホームページをご覧ください。

問い合わせ先：北海道支部事務局

*支部事務局住所、メールアドレスが変更されましたのでご注意ください。

〒062-0922

札幌市豊平区中の島2条1丁目3-25 カムオンビル

E-mail：jmta.hokkaido.reiwa@gmail.com



東北支部 — 近況 —

支部長 渡邊 恵里

東北支部では、2019年7月14日（日）、山形市保健センター（山形市）において、第19回支部学術大会及び2019年度総会を開催致しました。「音楽療法の可能性」～人と人とのつながりを再考する～を大会テーマに、福山和女先生、生野里花先生、三宅博子先生に大変興味深いご講演をいただきました。東日本大震災から8年が経過した東北において、改めて「人と人とのつながり」の大切さを様々な視点から学び、音楽療法の可能性について考えることができ、充実した大会となりました。

また、前日の7月13日には東北支部で初の第1回LSC講習会を開催致しました。福山和女先生のご講演の後、参加者でのピア・スーパービジョンを行い、お互いが共有し、共感し、共に学び合う貴重な体験であったとの感想が多く聞かれた講習会となりました。支部では、今後第2回、第3回のLSC講習会の開催を予定しています。

2019年度東北支部講習会の予定

日時：2020年3月1日（日） 11：00～15：00

会場：仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール

講師：佐々木 和佳氏（東邦音楽短期大学）

テーマ：高齢者領域の音楽療法～パーソン・センタード・ケアの理念と観察ツールを通して～

東北支部のみならず、他支部からの参加も歓迎いたします。

問い合わせ：東北支部事務局 〒988-0261 宮城県気仙沼市本吉町後田137-2 佐藤方

Email：jmta-tohoku@festa.ocn.ne.jp

詳細につきましては、支部ホームページをご覧ください。

関東支部 — 近況 —

事務局長 猪之良高明

1. 関東支部大会・講習会（埼玉大会）開催について

第19回日本音楽療法学会関東支部 地方大会（埼玉）が2020年11月28日（土）埼玉県さいたま市において開催されます。「多様多彩～ひびけ！みんなのハーモニー～」を大会テーマに市民講座をはじめとして様々な企画で皆様をお迎えしたいと思います。

詳細については、関東支部ホームページに掲載されておりますのでご覧ください。また、関東支部会員のみならず他支部会員、一般の参加も歓迎いたしますので、ぜひお越しください。

2. 講習会のお知らせ

関東支部では会員ニーズに応えるべく、関東支部大会・講習会以外にも様々な講習会を企画しております。①支部研修講習会 ②都県別講習会等々の開催を予定しております。支部以外の会員や一般の方も参加可能な研修もあります。

◎2019年11月以後の研修予定

◎第10回 LSC ラーニングサポートセンター講習会

日時 2019年12月8日（日） 10：00～16：30

会場 日本福祉教育専門学校高田校舎

ワークショップ ピアスーパービジョンを通じた学びと仲間作り

定員：40名 講師 恩田萌美先生、平野夏子先生

◎第2回講習会

日時 2020年3月1日（日） 9：45～17：00

会場 日本福祉教育専門学校高田校舎

講演会 講師 森稚葉先生、山本久美子先生

定員：90名

いずれの案内も、日程や会場が変更になる場合がありますので、詳細は関東支部ホームページをご確認ください。

関東支部ホームページ <http://www.jmta-kanto.jp/>



信越・北陸支部 — 近況 —

事務局長 丸山 敬子

信越・北陸支部では、2019年（令和元年）6月16日（日）、石川県小松市こまつ芸術劇場うらら小ホールにて日本音楽療法学会第17回信越・北陸支部学術大会を開催しました。大会テーマを「磨き合おう 音楽療法の技術 深めよう ケアの心」として、会員相互が惜しみなく音楽療法の技術と心を通わせあい、学びあえる場としました。

午前は新しい試みとして日頃のセッションをワークショップスタイルで行いました。また、事例発表では2題の事例をもとに有意義な時間を持つことができました。午後は公開講演とし、横浜相原病院院長吉田勝明氏に「今なら間に合う より良い高齢期の迎え方」と題し高齢者について、さらに昭和音楽大学准教授二俣泉氏に「子どものコミュニケーションと社会性を育てるための音楽活動のアイデア」と題し児童の音楽療法についてのお話をいただきました。最後に、本支部長の宮本啓子氏も交えて、スペシャルトーク「音楽療法士の未来を語る」として、国家資格化についての動向などにも触れていただきました。今回は、1日開催ということで時間的にはタイトでしたが、十分な学びの場となり会員相互の交流ができました。

信越・北陸支部は各県間の交通アクセスが不便です。しかし、支部学会は顔の見える有意義な交流の場となっておりますので、今後も風通しのよい活動を目指していきたいと考えております。

また、団体登録されている研究会等は現在9団体で活発な研究・研修活動が行われております。来年の第18回支部学術大会は6月6日に長野県上田市で開催予定です。

東海支部 — 近況 —

事務局長 伊藤 孝子

現在、第10期役員選挙にあたり、選挙管理委員会を中心に様々な作業を行うと同時に、東海支部紀要（第7巻）発刊に向けて、編集委員会を中心に作業を進めているところです。

また、2020年3月に岐阜協立大学にて、第19回東海支部大会と支部研修会を開催いたします。

詳細については東海支部ホームページ等でお知らせいたしますので、ご覧いただけますと幸いです。



近畿支部 — 近況 —

事務局長 佃 誉子

近畿支部では2020年3月7日（土）・8日（日）に、京都府宇治市にあります京都文教大学・京都文教短期大学にて、第18回近畿学術大会を開催します。この近畿学術大会の開催に向けて、大会実行委員会と支部講習会企画委員会で準備を進めています。大会1日目は、研究発表、ラウンドテーブルや交流会、大会2日目は京都文教大学・京都文教短期大学学長の平岡聡先生による特別講演の他、8つの講習を企画しています。中心会場となる京都文教短期大学では幼児教育学科の学生のための施設や備品が整備されており、これらを存分に活用させていただき、より充実した学びの機会になればとの思いで準備を進めております。他支部の方も歓迎いたしますので、どうぞご参加ください。詳細は近畿支部ホームページをご覧ください。（<http://www.jmtak.com/>）

2002年より発行しています『近畿音楽療法学会誌』は、原著論文や事例研究、近畿学術大会講習会の概要、ラウンドテーブルの報告記事、近畿支部活動記録を掲載しています。購読をご希望の方は近畿支部事務局（jmtak@guitar.ocn.ne.jp）、またはアカデミア・ミュージック株式会社（03-3813-6751）までお問合せください。



中国支部 — 近況 —

支部長 武田千代美

中国支部は、第19回中国支部大会、ならびに第26回支部主催講習会を、6月8日、9日の両日、鳥根県松江市の松江テルサにて開催しました。

第1日目の支部主催講習会は、日本芸術療法学会理事の富澤 治先生に、「芸術療法からみた音楽療法」、桐朋学園芸術短期大学の鈴木 千恵子先生に、「私の音楽療法史 ～児童領域の実践から～」と題したご講演を賜りました。続く第3講は、二つのワークショップを企画し、白菊園病院専任音楽療法士の糟谷 由香先生に「リズム即興活動『ドラム・サークル』とその臨床応用」、Co-Musictherapy 研究所の中島 恵子先生に「セラピーにおける音・音楽 ～リズム・メロディー・ハーモニーの体験を通して～」と題して実践とご講演を賜りました。

第2日目の支部大会は、「音で紡ぐ心の輪 ～音楽療法における関係性～」を大会テーマに、鳥根大学の肥後 功一先生に「言葉と関係性」「心へのアプローチと関係性」と題してご講演いただきました。午後からは、会員総会に続いて、藤本 禮子理事長より国家資格化に向けた今の学会の動向についてご講話を賜りました。3題の研究発表があり、活発な意見が交わされました。また今回は「音楽療法アイデア交流会」として、日ごろの実践に役立つ手作りの楽器や小物、紹介したい楽器、書籍などを持ち寄り情報の交換をするコーナーを設けましたところ、良い評価を頂きました。

開催に際しまして、ご協力を賜りました関係各位に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

10月6日、広島にて、LSCを開催いたします。支部会員の皆様の積極的なご参加をお待ちいたしております。詳しくは中国支部HPをご覧ください。

四国支部 — 近況 —

事務局長 栗田 京子

四国支部では、2019年4月より新体制にて稼働しております。三崎めぐみ支部長を中心に各委員会を立ち上げました。研修・企画・広報・倫理という委員会に、各県より若干名の会員を選出し構成されています。ホームページも刷新する方向で、広報委員会が作成中ですので、ご期待ください。

37号春号と重複しますが、今年度の支部大会が2020年1月12日に徳島県のあわぎんホールにて開催されます。四国内外からのご参加お待ちしております。

尚、四国支部事務局のEmail：sikoku.mt@gmail.com となっておりますので、お問い合わせはこちらをお願いいたします。



九州・沖縄支部 — 近況 —

事務局長 西林 淑子

今年度、九州・沖縄支部においては役員改選を行い、支部長：齋藤考由、副支部長：小林真寿子ほか、高江洲義英、教育・研修担当：山下恵子、桜井琴音、倫理担当：児玉典子、中垣美子、監事：村橋和子、米倉裕子、広報・事務局担当：池田憲治の各氏が選出された。

また支部主催の講習会として認定者向けに毎年行っている「集団精神療法体験講座」は、参加者は少人数ながらグループ体験を通して語り合うことで、気づきの多いピアサポートの機会となっていて、継続して参加する会員が多い。

7月に行った支部全体に向けての講習会は、山下恵子先生の「音や音楽を使ったプレイフル・ワーク」と題した講座で、久しぶりの体験ワークショップに参加者一同、童心にもどって受講していた。

来年2020年は熊本において第20回大会が開催されるため、成功にむけて支部会員一同協力していく所存である。

学会事務局からのお知らせ

■ 2019年度（補）資格試験を申請される方へ

2020年1月19日（日）に実施されます2019年度音楽療法士（補）資格試験の受験申請受付期間は、2019年11月15日（金）～11月29日（金）まで必着です。なお、試験の実施会場は東京会場（日本教育会館）1ヵ所のみです。（補）試験に関する詳細は、学会ニュース37号9ページをご確認ください。

※一般コースから（補）資格試験を申請される方は、「証明書現物返却用封筒」への切手貼付けは不要となりました。

■ 2019年度資格審査を申請される方へ

2019年度資格審査の申請（面接試験）期間や申請方法等につきましては、8ページをご覧ください。

■ 2019年度資格更新審査および猶予を申請された方へ

2019年10月31日（木）までに提出された更新および猶予申請の審査結果は2020年2月初旬までに通知されます。

■ 「団体総合保障保険」のご案内

音楽療法士の業務保険を同封のパンフレットのとおりにご案内します。保険については加入を希望される方はパンフレット綴じこみの「保険申込FAX連絡票」にて記載の期日までに事務局まで加入依頼書を請求してください。この保険は日本音楽療法学会会員専用として特別に設定したものです。加入者が少ない場合廃止となりますので奮って加入いただきますようお願いいたします。

なお、この保険についてのお問い合わせはTEL：044-200-9421のセントラル保険までお願いします。

■ 認定音楽療法士対象 ピティナとの情報共有サービスについて

一般の方々への「音楽療法士資格を保有するピアノ指導者」の情報提供を目的として、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会（以下、ピティナ）との間で、学会認定音楽療法士有資格者の情報共有サービスを開始しました。条件を満たす方はピティナ Web サイト上のピアノ教室紹介ページに「音楽療法士マーク」を無料で表示することができます。ご希望の方は下記に沿ってお申し込みください。

対象者：日本音楽療法学会認定音楽療法士 かつ ピティナ会員である方。

申込方法：会員名、学会とピティナ両方の会員番号を明記の上、「ピティナ ログマーク表示希望」として学会事務局宛にメールをお送りください。

メールアドレス jmta2@jmta.jp

注意事項：申し込み先はピティナ事務局ではございません。

申し込み後、ログマークの表示までに日数を要しますのでご了承ください。

認定音楽士資格が失効した場合、ログマークの表示は中止されます。



■ 「スーパービジョンの手引」のご購入について

スーパービジョン検討特別委員会編纂の「スーパービジョンの手引」が発行されています。（A 4版60ページ、2015年8月発行）購入を希望される方は25ページ「各種取り寄せ方法」をご覧ください。

■ 「抄録の書き方」のご購入について

研修・講習委員会編纂による「抄録の書き方（わかりやすい学会発表のために）」が発行されています。（B 5版76ページ、2006年8月23日発行）購入を希望される方は25ページ「各種取り寄せ方法」をご覧ください。

■ 「音楽療法臨床ハンドブック」のご購入について

学術研究委員会編纂による「音楽療法臨床ハンドブック」が発行されています。(A4版114ページ、2019年4月発行) 購入希望の方は25ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。



■ 〈DVD「音楽のちから2012」～音楽療法が拓く可能性～〉のご購入について

15分間の音楽療法の啓発DVDが発売されています。購入を希望される方は25ページ「各種取り寄せ方法」をご覧ください。(一般の方に視聴していただくのに最適です。)

■ 学会ホームページからの規則書閲覧について

学会ホームページより各規則書の抜粋版を閲覧いただくことができます。メニューより「ダウンロード」を選択し、規則書ファイル(PDF)をダウンロードしてご覧ください。

■ 学会誌バックナンバーのご購入について

日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌バックナンバーの購入につきましては、学会事務局では取り扱っておりませんので下記へお問い合わせください。

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 アカデミア・ミュージック株式会社

TEL: 03-3813-6751 FAX: 03-3818-4634

■ 会費(年会費)納入のお願い

年会費は年度内にお納めいただきますようお願いいたします。昨2018年度分未納の方は、このまま滞納が解消されない場合、2020年3月末にて会費未納退会となります。この場合、再入会はできません。

正会員 10,000円 学生会員 6,000円

購読会員 6,000円 賛助会員 50,000円/1口

払込先 郵便振替口座 加入者名: 日本音楽療法学会 口座番号: 00120-9-657711

■ 各種資料取り寄せ方法

各種資料のお取り寄せを希望される方は、郵便局にて料金分の定額為替をご購入いただき、希望資料の内容を明記した封筒（例、規則書一般コース 請求）に同封の上、学会事務局までお送りください。その際、お送りいただく為替には「なまえ」など何も記入しないでください。返信用封筒は不要です。

資料		金額（送料込）
認定規則書	必修講習会コース（旧一般コース）	500円
	面接試験	500円
	資格更新	500円
認定音楽療法士（補） 問題解説集	2001～18年度単年度版 ※希望年度を明記してください	各1,000円
	2001～05年度、2006～10年度、 2011～15年度、五ヶ年分合冊版 ※希望年度を明記してください	各2,000円
その他	音楽臨床ハンドブック	2,000円
	スーパービジョンの手引き	1,000円
	抄録の書き方	1,000円
	倫理ハンドブック	500円
	特別プロジェクト研究報告	500円
DVD	音楽の力2012 ～音楽療法が拓く可能性～	1,000円
学会誌、学術大会要旨集、学術大会 講習会資料集（2018年度～）	日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌 バックナンバー、学術大会要旨集（第15回世界音楽療法大会含む）のバックナンバー は学会事務局では取り扱っておりませんので下記までお問い合わせください。 アカデミア・ミュージック株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634	

■ 事務局への各種お届けについて

● 会員区分変更

現在学生会員の方で教育機関を卒業された方は、正会員への会員区分の変更が必要です。事務局まで文書にて区分変更の届出をお願いします。書式は自由です。正会員から学生会員へ変更を希望される場合は、学生証のコピーを添付の上、同様に事務局へ届け出てください。

※学生会員は認定申請ができないとともに、研究発表、論文発表もできません。ご注意ください。

※認定をお持ちの方、必修講習会を受講中の方は正会員であることが必須のため、学生会員への変更はできません。

● 住所・名義変更

市町村の合併などを含め住所および連絡先に変更がある方、名義を変更される方は、学会 HP から、もしくは事務局宛に文書にて変更を届け出てください。書面で提出する場合の書式は自由です。

※学会認定資格をお持ちの方はローマ字氏名も明記してください。

■ 各種証明書再発行手数料のお知らせ

学会の発行する各種証明書の再発行にはつぎの手数料がかかりますのでご了承ください。手数料分の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、希望の再発行内容を記載し学会事務局へお申し込みください。

○音楽療法士（補）資格証明書、学術大会参加証明書（第6回大会から）講習会受講証明書、など
手数料：500円

○音楽療法士登録証明書、賞状
手数料：2,000円

※記載の住所や名義の変更も含まれます。

※3×4 cmの顔写真、現在お持ちの登録証明書と賞状を同封して、学会事務局までお送りください。

※登録証明書・賞状ともに再発行する場合も、一方のみを再発行する場合も、手数料は一律2,000円です。

※名義変更の場合は、氏名のローマ字表記を明記してください。

※1ヶ月程度お時間がかかりますのでご了承ください。

■ 音楽療法士求人情報提供のお願い

音楽療法士の求人情報を学会ホームページに掲載しています。有償で直接雇用のものに限定しますが、求人情報を事務局へお寄せください。掲載期間は3ヶ月です。なお、求人情報ページは情報を提供するだけのもので、就職の斡旋をするものではありません。

■ ホームページ「事務局からのお知らせ」新設について

学会ホームページのトップ画面に「事務局からのお知らせ」欄を新設しました。会員向け発送物等を掲載します。対象の方で発送物が届かない場合は事務局までお問合せください。

■ 事務局の電話受付時間変更のお知らせ

2019年11月1日（金）より事務局の電話受付時間を変更いたします。ご理解の程お願い申し上げます。

現在：平日 月曜日～金曜日 9：00～17：00

変更後：平日 火曜日～金曜日 11：00～15：00

■ 事務局職員の異動について

退職1名 中村 登志彦（2019年8月31日）

学会会則はニュース37号 P.27～をご覧ください。